

而に故阿仏聖靈は日本国北海の島のえびすのみ（身）なりしかども、後生ををそれて出家して後生を願しが、流人日蓮に値て法華経を持、去年の春仏になりぬ。戸陀山の野干は仏法に値て、生をいとひ死を願て帝釈と生たり。阿仏上人は濁世の身を厭て仏になり給ぬ。其子藤九郎守綱は此の跡をつぎて一向法華経の行者となりて、去年は七月二日、父の舍利を頸に懸、一千里の山海を経て甲州波木井身延山に登て法華経の道場に此をおさめ、今年は又七月一日身延山に登て慈父のはかを拝見す。子にすぎたる財なし。子にすぎたる財なし。南無妙法蓮華経、南無妙法蓮華経

（弘安三年七月二日）